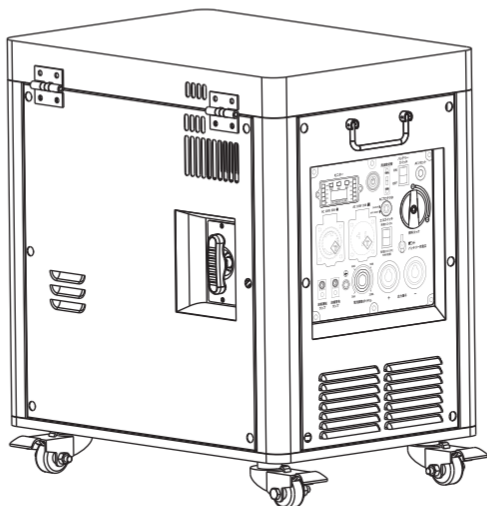


EENOUR



DK4600iW

エンジン発電機兼用溶接機 取扱説明書






はじめに

このたびは「エンジン発電機兼用溶接機DK4600iW」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

 危険	人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。
 禁止	取扱においてその行為を禁止します。
 指示	指示に基づく行為を強制します。

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくために	01～04
各部の名称と取り扱い	05～11
・各部の名称	05
・コントロールパネル部	06
・各部の取り扱い	07～10
付属品	11
発電機能のお取り扱い	11～17
・運転前の点検	11
・燃料の給油	11～12
・エンジンオイルの給油	13
・エンジンオイルの量の確認	13～14
・エンジンの始動前の確認事項	14
・エンジンの起動	15～16
・エンジンの停止	17
・AC電源 100V	17
MMA溶接機能のお取り扱い	18～22
・使用率について	18
・接地(アース)について	18
・溶接の準備	19～20
・操作の仕方	21～22
点検・整備の仕方	23～27
・定期点検表	23
・バッテリーの充電	24
・エンジンオイルの交換	24
・点火プラグの点検と清掃	25
・燃料タンクストレーナーの清掃	26
・エアクリーナエレメントの清掃	26～27
運搬する場合には	28
一時保管・長期保管	29
不具合時の対応	30～31
仕様諸元	32
配線図	33
保証期間およびお問い合わせ	34
保証書	35

安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

危険

❗ 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。

❌ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

❌ 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

❌ 車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

❌ 傾斜地で使用しない

平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。

❌ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

❌ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

❌ 雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。

安全にお使いいただくために

危険

❶ 本機を分解、修理、改造しない

取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

❷ エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身傷害や機械の破損を防止することができます。手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。

❸ 長期保管前には燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する

抜き取った燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。

❹ 点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように燃料コックをOFFの位置にし、点火プラグキャップを取り外す

エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

警告

❶ 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。

❷ 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない

エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れない感電の原因となります。

❸ エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない

火災の原因となります。

❹ 使用中に音、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する取り外す

お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

❺ 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

安全にお使いいただくために

使用、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

警告



禁止

- ・本機は、溶接のために設計・製造されています。用途以外に使用しないでください。
- ・本機や本機作業場所の周囲には、不用意に人が立ち入らないようにしてください。
- ・心臓ペースメーカーを使用している人は、本機や本機作業場所に近付かないでください。溶接機の通電中は、周囲に磁場を発生させるため、ペースメーカーの作動に悪影響を及ぼします。
- ・狭い場所での溶接作業は行わないでください。ガス中毒や酸欠により窒息する危険があります。
- ・有害なガスや引火性の物質の側では溶接作業をしないでください。
- ・内部にガスの入ったガス管や、密閉されたタンクやパイプを溶接しないでください。
- ・溶接直後の熱い母材（溶接物）を、可燃物に近づけないでください。火災の原因となります。
- ・帯電部には絶対に触れないでください。感電ややけどを負う恐れがあります。
- ・本機を使用中に、溶接ホルダ先端やアースクリップに触れると感電ややけどの恐れがあります。
- ・素手や濡れた手袋で作業しないでください。感電する恐れがあります。
- ・分解や改造は行わないでください。火災、誤作動、故障の原因になります。
- ・ケースやカバーを取り外したまま、使用しないでください。
- ・子供や幼児の手の届く所で使用しないでください。やけど、感電、怪我の恐れがあります。



指示

- ・溶接電源のケースおよび母材または母材と電気的に接続された治具などには、電気工事士の資格を有する人が法規（電気設備技術基準）に従って接地工事をしてください。
- ・ガス中毒や窒息を防止するため、法規（酸素欠乏症等防止規則）で定められた場所では、十分な換気をするか、空気呼吸器等を使用してください。

安全にお使いいただくために

⚠ 警告



指示

- ・ヒューム等による粉じん障害や中毒を防止するため、法規（労働安全衛生規則、粉じん障害防止規則）で定められた局所排気設備を使用するか、呼吸用保護具を使用してください。
- ・被覆鋼板の溶接では、必ず十分な換気をするか、呼吸用保護具を使用してください。被覆鋼板を溶接すると、有害なガスやヒュームを発生します。
- ・作業場の近くに消火器を配し、万一の場合に備えてください。

⚠ 注意



禁止

- ・溶接ホルダコード、アースコードを傷つけたり、破損させたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。感電、発火の原因になります。
- ・溶接機のケースやカバーを取りはずしたまま使用しないでください。
- ・保守点検・修理などでケースをはずすときは、有資格者または溶接機をよく理解した人が行い、溶接機の周囲に囲いをするなど、不用意に他の人が近づかないようにしてください。
- ・単相100V以外では使用しないでください。
- ・回転中のファンや送給ロールに手、指、髪の毛、衣類などを近づけないでください。
- ・運搬や取扱いの際は、振動や衝撃を与えないでください。

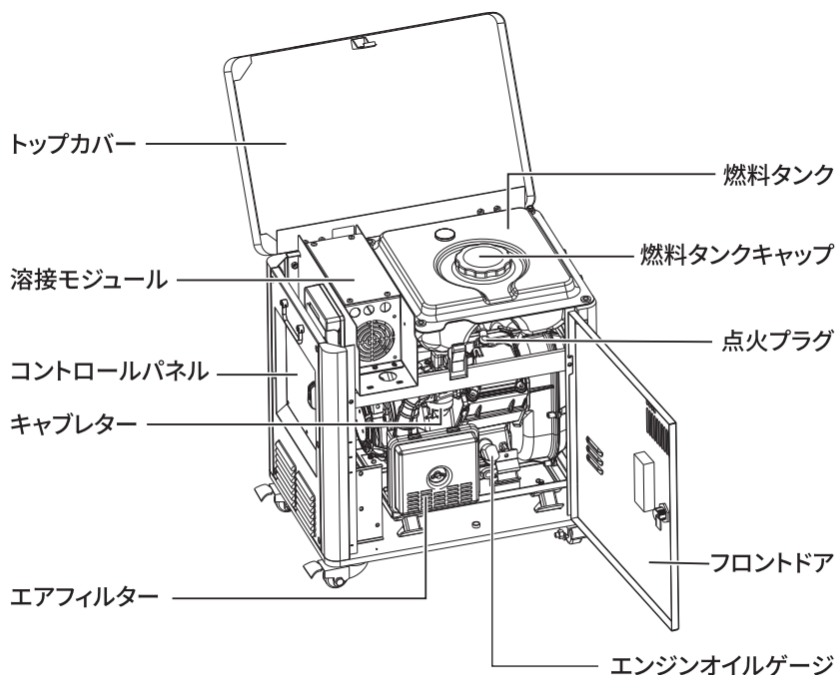
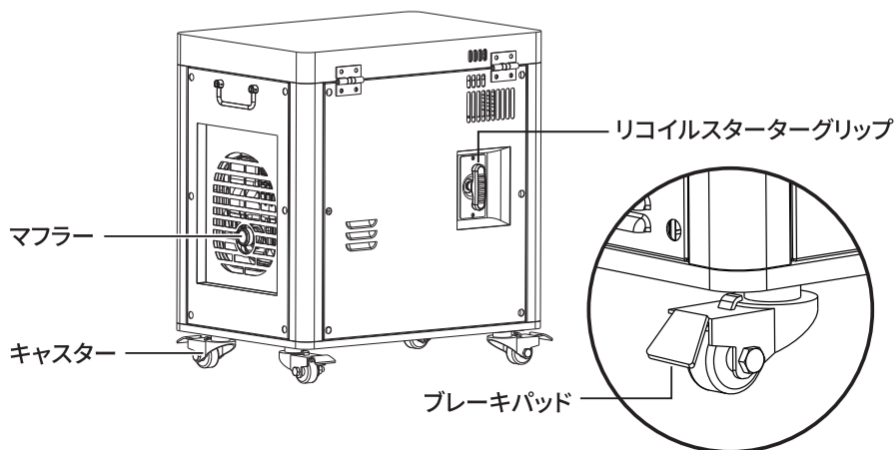


指示

- ・溶接作業や溶接の監視を行う場合には、十分なしゃや光度を有するしゃや光保護めがね、または溶接用保護面を使用してください。
- ・溶接用皮製保護手袋、長袖の服、脚カバー、皮前かけなどの保護具を使用してください。
- ・騒音レベルが高い場合には、防音保護具（耳栓、イヤーマフなどの耳覆い）の種類は、法規に従って使用してください。
- ・溶接作業やグラインダー作業は、スパッタや鉄粉が機器の内部に入らないように機器から離れた場所で行ってください。
- ・溶接作業場所周辺には、アーク光線が他人の目に入らないように保護幕などを設置してください。
- ホコリ等の堆積による絶縁劣化を防ぐために、定期的に内部清掃を実施してください。
- ・点検・整備などでケースやカバーを外す時は、有資格者又は切断機をよく理解している人が行ってください。
- ・ファンの掃除は、柔らかい布等で粉じんを拭取ってください。エアコンプレッサーによるエアガンでファンに吹き付けると、風圧で粉じんがファン内部に入り込んだり、ファンが高回転し故障の原因になります。
- ・本機を保管する場合は、風雨の当たる場所、高温・多湿、ほこりっぽい場所は避けてください。本機の故障の原因になります。

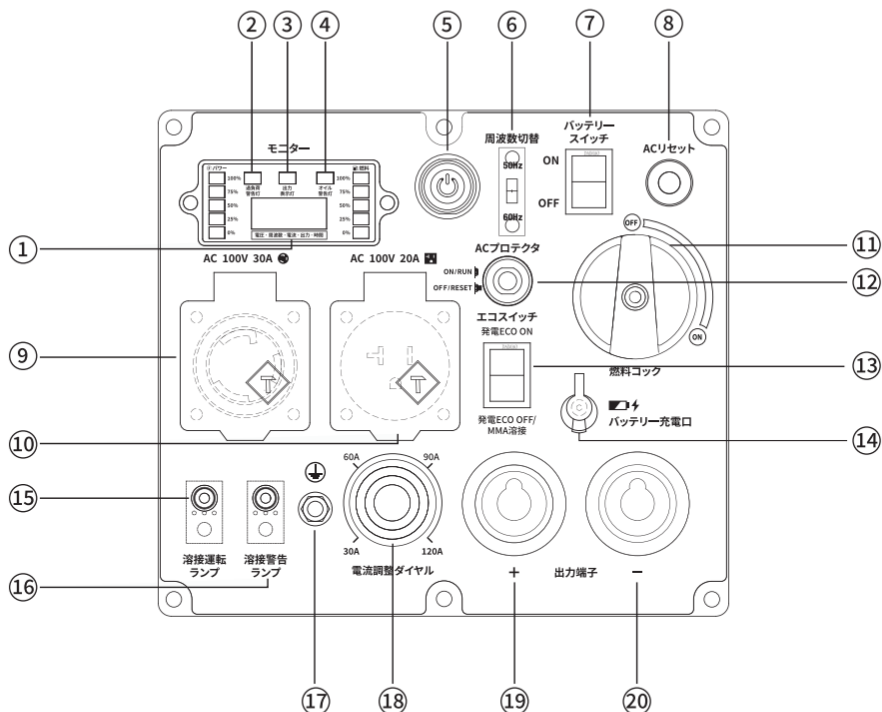
各部の名称と取り扱い

各部の名称



各部の名称と取り扱い

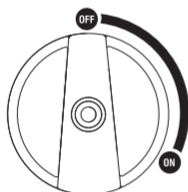
コントロールパネル部



①LCDディスプレイ	②過負荷警告灯	③出力表示灯
④オイル警告灯	⑤セルスタートボタン	⑥周波数切替スイッチ
⑦バッテリースイッチ	⑧ACリセットスイッチ	⑨ACコンセント100V/30A
⑩ACコンセント100V/20A	⑪燃料コック	⑫ACプロテクタ
⑬エコスイッチ	⑭バッテリー充電口	⑮溶接運転ランプ
⑯溶接警告ランプ	⑰接地(アース)端子	⑱溶接電流調整ダイヤル
⑲溶接出力端子(+)	⑳溶接出力端子(-)	

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

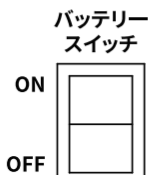


1.燃料コック

燃料の流れを制御し、エンジンの始動、停止を行います。

OFF (閉) のままだとガソリンが流れなくて、エンジンが始動できません。

- ・ON (開) : エンジンをかけるときの位置です。
- ・OFF (閉) : 初期状態です。停止および保管、運搬時の位置です。



2.バッテリースイッチ

バッテリーの点火回路を制御する装置です。

- ・ON (開) : バッテリーの点火回路が開けられ、発電機を起動することができます。
- ・OFF (閉) : バッテリーの点火回路を閉められ、発電機が運転停止となります。



3.セルスタートボタン

バッテリーの電力を利用しモーターを回転させ、その動力でエンジンを始動させる装置です。

バッテリーコネクタが接続済み、バッテリースイッチをONにした状態で、セルスタートボタンを一回短く押すとエンジンが起動します。もう一回短く押すとエンジンが停止します。

⚠注意: セルスタートボタンを長押しすれば緑色に光りますがエンジンが起動しないことがあります。



4.リモコン

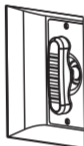
ペアリング方法: セルスタートボタンを3～5秒間長押しして、緑ライトが点灯したら、リモコンのON/OFFを消灯するまで長押しすると接続が完了します。

⚠注意: 発電機とリモコンは出荷時に既にペアリングされています。

- ・ON (開) : エンジンをかけるときの位置です。
- ・OFF (閉) : 初期状態です。停止および保管、運搬時の位置です。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い



5.リコイルスターターグリップ

エンジンを始動させるときに使用します。

△注意: バッテリー電力不足になって、リコイルスターターで起動する場合もバッテリーコネクタを接続する必要があります。



過負荷
警告灯



出力
表示灯



オイル
警告灯

6.出力表示灯・過負荷警告灯・オイル警告灯

・出力表示灯 (緑): 発電が始まると点灯します。インバータが使用可能であることを示します。

・過負荷警告灯 (赤): 発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のときに出力表示灯が消え、過負荷警告灯が点灯し、電気が取らせなくなります。

・オイル警告灯 (黄): 本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート構造が内蔵されています。エンジンオイルが不足し焼付きが起る前にこの構造が働き、エンジンを停止させオイル警告灯が点灯します。

△注意: 電子機器の種類により、起動時に起動電力が消費電力の1.1倍～5倍より高くなることがありますので、搭載したい電気機器の合計起動電力が3500W以下であることを確認してください。

ACリセット



7.ACリセットスイッチ

過負荷警告灯が点灯および出力表示灯が消灯し、電気が取り出せなくなったとき、このボタンを押してリセットすることで、出力表示灯が点灯し電気の供給が再開されます。このボタンを押す前に下記内容を確認してください。

- ・本機から使用している電気機器を取り外してください。
- ・電気を取り出しすぎないこと。使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。



電圧・周波数・電流・出力・時間

8.LCDディスプレイ

発電機の累積使用時間、燃料残量目安、出力ワット数、出力電圧、周波数が表示されます。

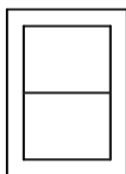
△注意: 燃料残量目安について、1目盛りは赤色のランプが点灯 (点滅) しますが、1目盛り以上のところは白色のランプが点灯します。燃料が減る場合は白色のランプが消灯します。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

エコスイッチ

発電ECO ON



発電ECO OFF/
MMA溶接

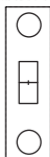
9.エコスイッチ

・発電ECO ON (作動) : エコモードを使用します。電気機器を使用する際に、エンジンは自動的に電気の出力に応じたエンジン回転数に変わり、電気機器を使用しない時は自動的に低速運転になります。燃料消費量と騒音を減らします。

・発電ECO OFF /MMA溶接 (解除) : エコモードを使用しません。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。エコスイッチを「発電ECO OFF /MMA溶接」位置にする場合しかMMA溶接機能が使用できません。

△注意: 冷蔵庫、コンプレッサ、溶接機や水中ポンプなど、起動時に大きな起動電力を必要とする機器を使用する場合はエコスイッチをオフにしてください。

周波数切替



10.周波数切替スイッチ

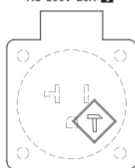
周波数の切り替え (50Hz⇔60Hz) を行うスイッチです。エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。エンジン運転中に周波数を切り替えることができません。



11.アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。本機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。

AC 100V 20A

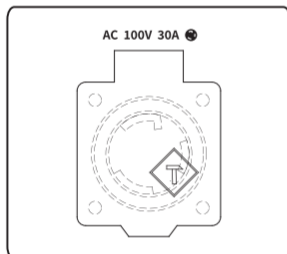


12.AC出力コンセント20A

AC出力コンセント20Aから普通の電気機器に給電可能です。電気機器の消費電力の合計が2000Wを超えないようにしてください。

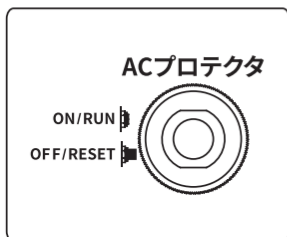
各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い



13.AC出力コンセント30A

消費電力が2000W～3000Wの電気機器に給電した場合、このコンセントを使ってください。また、NEMA規格 L5-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用してください。



14.ACプロテクタ

AC出力コンセントの温度がACプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にACプロテクタボタンが飛び出して“OFF”になり、電気が取出せなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからACプロテクタを“ON”にします。



15.バッテリー充電口

内蔵バッテリーを充電できる専用ACアダプター(別売部品)の出力プラグを差し込む端子です。発電機の内蔵バッテリーの残量が少なくなり、セルスタートができない時は専用ACアダプターを使って充電してください。

専用ACアダプターについては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意: バッテリーを専用ACアダプターで充電する場合は必ずエンジンを停止してから行ってください。また、専用ACアダプター以外は使用しないでください。バッテリーの故障や破裂の原因となります。

付属品

アースコード×1	溶接ホルダコード×1	リモコン×1
目盛り付き オイルジョッキ×1	エンジンオイル ホース×1	点火プラグ スリープパイプ×1
点火プラグ交換 用レンチ×1	取扱説明書×1	

発電機能のお取り扱い

運転前の点検

本機には「燃料」と「エンジンオイル」の2種類が必要です。下記をよくお読みいただき、必ず給油してからご使用ください。

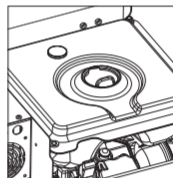
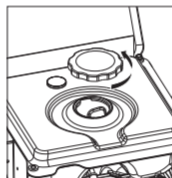
工場出荷する前に、エンジン試運転を行いますので、試運転終了後はオイルとガソリンを抜き取りますが、少量のオイルとガソリンが残ることがあります。予めご承知ください。

燃料の給油

トップカバーを開け、燃料タンクキャップを外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。2回目以降の使用時：中にガソリンが残っていても劣化している恐れがあります。30日に1回、新しいガソリンに交換してください。



使用燃料：
無鉛ガソリン
(自動車用レギュラーガソリン)

燃料タンク容量：7L (赤レベルまで)





発電機能のお取り扱い

⚠ 警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none">・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。・エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。
 指示	<ul style="list-style-type: none">・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。

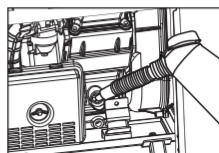
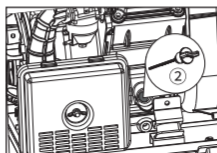
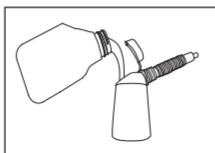
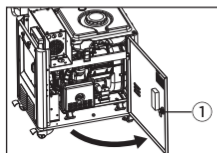
⚠ 注意

 禁止	<ul style="list-style-type: none">・燃料は規定量以上（ストレナーの赤レベル以上）給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。・軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。・古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。
 指示	<ul style="list-style-type: none">・ガソリンは自然劣化しますので 30 日に 1 回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。・燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。・ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

発電機能のお取り扱い

エンジンオイルの給油

1. 平坦な場所に発電機を止め、ブレーキパッドをかけてから、ハンドル①を引いてフロントドアを開けます。
2. 付属のオイルジョッキのフタを開け、エンジンオイルを注ぎます。
⚠ 注意：本機のエンジンオイル規定量が450mlで、付属のオイルジョッキの容量が220mlなので、200ml・200ml・50mlとの3回に分けて注いでご使用ください。
3. オイルゲージ②を外してオイルジョッキをオイル給油口に差し込み、本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。
4. 給油したらオイルゲージを取り付け、しっかり締め付けます。フロントドアを閉めます。



推奨オイル：

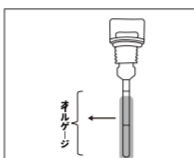
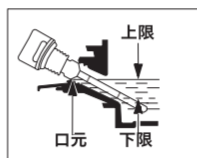
4サイクル用エンジンオイル

SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上

エンジンオイル規定量：0.45L

エンジンオイルの量の確認

1. 平坦な場所に発電機を止め、ブレーキパッドをかけてから、フロントドアを開けます。
2. オイルゲージを引き抜き、一度ウエスで拭き取ります。
3. オイルゲージを差し込んで（注入口からオイルゲージをねじ込まないでください。）から引き抜き、エンジンオイルが付着している部分の範囲で残量を確認します。
4. オイルゲージにはレベル線がついており、エンジンオイルがレベル線の上限付近まで付着していれば適正量です。



発電機能のお取り扱い

警告



- ・エンジンオイルを給油しない場合、始動しないでください。
- ・エンジンオイルを規定量以上に給油しないでください。エンジンオイルを入れ過ぎた状態で始動すると、エンジンが停止する、白煙が出るなど、不調の原因となります。



- ・オイルゲージは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- ・初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。

エンジンの始動前の確認事項

- ・エンジンオイルは適量充填されていますか。
- ・燃料は購入1か月以内の新鮮なものが適量充填されていますか。
- ・周囲に燃えやすい物(特にガソリンやエンジンオイルなど)や危険物は置いていませんか。
- ・周囲に火の気はありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。

危険



- ・本機エンジンがかけると、溶接ホルダコードはすぐに通電して加熱されますので、起動前に安全な位置に置いて、他人を近づかないように注意してください。ホルダは機械本体と接触できません。
- ・発電機能と溶接機能が同時に使用することができますが、溶接機能に必要なパワーが比較的大きいため(溶接電流100Aの場合は2700Wが必要、120Aの場合は3200Wが必要)、本機の定格出力範囲(3500w)を超えたら、過負荷が発生する可能性があります。故で発電機能と溶接機能が同時ご利用になる場合は、接続の電気製品の入力パワーと溶接に必要なパワーが本機の定格出力を超えないことにご注意くださいますようお願いいたします。
- ・コード接続または溶接棒の交換はすべて停機状態のもとで行ってください。さもないと、通電であるコードなどは重大な人身事故を起こす可能性があります。

発電機能のお取り扱い

エンジンの起動

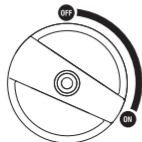
1. バッテリーコネクタを接続します。

エンジンを始動する前には、予めバッテリー配線コード（赤黒）のコネクタを接続する必要があります。右面の防護カバーを外し、下図のようにバッテリー配線コードのコネクタを接続します。



2. 燃料コックを[ON] (開) にします。

(燃料コックを回って過程に、フリーズがあることは正常です。気にしないでください。)



3. バッテリースイッチを「ON」にします。



4. エンジンを始動します。

4.1【セルスタートボタンで始動する場合】

セルスタートボタンを奥まで押してクリック感を感じたら離します。

⚠ 注意：

- ① ボタンを押してもセルモーターが回転しない場合は、バッテリーコネクタの未接続とバッテリーの消耗が考えられます。
- ② 長時保管後、バッテリーの残量が少なくなり、セルスタートができないことがあります。この時はリコイルスターターで始動してください。または、専用ACアダプターを使ってバッテリーを充電してから再度セルスタートしてください。
- ③ セルスタートボタンを短く押してください。長押しすれば緑色に光りますがエンジンが起動しないことがあります。

4.2【リモコンで始動する場合】

ペアリング済みの状態でONボタンを2秒間長押しとエンジンが起動します。OFFボタンを2秒間長押しとエンジンが停止します。

発電機能のお取り扱い

△ 注意:

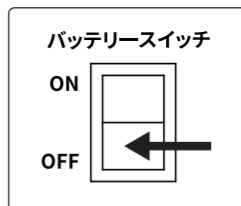
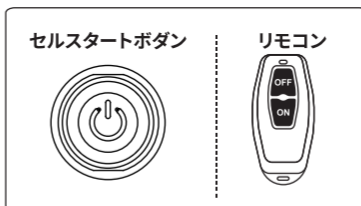
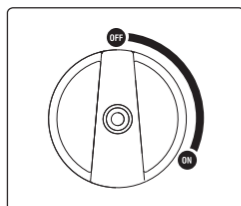
- ① 発電機とリモコンは出荷時に既にペアリングされています。
- ② 本リモコンの有効距離は20mですが、リモコンと発電機との間に障害物があると、操作できないことがあります。
- ③ リモコンの電池が消耗してくると、操作できる距離が徐々に短くなります。早めに新しい電池に交換してください。リモコン電池の種類はCR2016となります。

4.3【リコイルスターターで始動する場合】

リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。

エンジンの停止

1. 電気器具のプラグをコンセントから抜きます。電気器具のスイッチをOFFにします。
2. 燃料コックを「OFF」にして、セルスタートボタンを押して、エンジンを停止します。
3. バッテリースイッチを「OFF」にして、保存します。



⚠ 警告



禁止

- ・雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあります。
- ・エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。

⚠ 注意



指示

- ・リコイルスターターグリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- ・リコイルスターターハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、20分間ほど発電機を換気性の良い場所に置いて、再度起動を試みてください。

発電機能のお取り扱い

AC電源 100V

- 1.周波数切換スイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
 - 2.発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。
 - 3.「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。数秒後、出力表示灯(緑)が点灯していることを確認します。
 - 4.接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、ACコンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。
 - 5.電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷)でご使用の場合は、出力表示灯(緑)が点灯し続けます。
 - 6.過負荷運転或使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯(緑)が消え、過負荷警告灯(赤)が点灯し続け、電気が取出せなくなります。
- この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、ACリセットスイッチを押してリセットすることで、出力表示灯(緑)が点灯し電気の供給が再開されます。ショットの場合はエンジンが停止します。ショット解除してから、エンジンを再始動ください。

⚠ 警告



禁止

・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

⚠ 注意



禁止

・電気器具の合計負荷(交流、直流の合計)が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。



指示

・精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ(原動機雑音)の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ(原動機雑音)に影響されないことを確認してください。

・医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。

・電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。

・コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告灯が数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

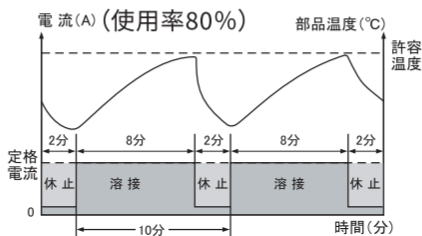
MMA溶接機能のお取り扱い

使用率について

本機の定格使用率は80%です。使用率80%とは10分間のうち8分間作業して2分間休止していることの繰り返しのことをいいます。長時間定格電流値で使用率を超えて使用されますと、本機がオーバーヒートします。また、定格使用率は最大電流値で使用了時の使用率で、それよりも低い電流値でを使用した場合は使用率は上がります。



注意: 定格使用率以下でご使用ください。定格使用率以上で使用すると、本機の温度上昇値が許容温度を超え、劣化・焼損する恐れがあります。



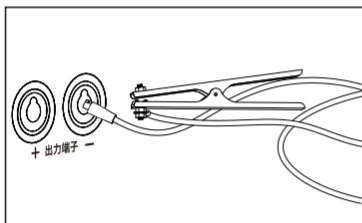
接地(アース)について

ケース及び母材(溶接物) は必ず接地(アース)してください。接地しないで使用すると、電源の入力回路とケースとの間にコンデンサーや浮遊容量を通してケースや母材(溶接物) に電圧が生じこれらに触れた時に感電する恐れがあります。

MMA溶接機能のお取り扱い

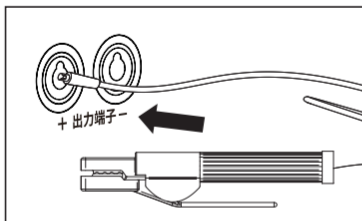
溶接の準備

1.アースコードのコネクタの凸部を、出力端子(－)の溝部に合わせ挿し込んで、時計回りに止まるまで回します。



2.溶接ホルダコードのコネクタの凸部を、出力端子(+)の溝部に合わせ挿し込んで、時計回りに止まるまで回します。

⚠注意: 厚板を溶接する場合は溶接ホルダコードを出力端子(－)に接続してください。



3.MMA溶接の正極性と逆極性について下記の表をご参照ください。

極性	接続方法	溶接効果	適用
逆極性	溶接ホルダコードを(＋)	溶け込みを広く浅く	薄板・ステンレス
	アースコードを(－)		
正極性	溶接ホルダコードを(－)	溶け込みを狭く深く	厚板
	アースコードを(＋)		

4.溶接ホルダに溶接棒(別売り)を狭めます。

⚠注意: 溶接物の厚さ、使用率の条件などにより適切な溶接棒の棒径を選択してください。

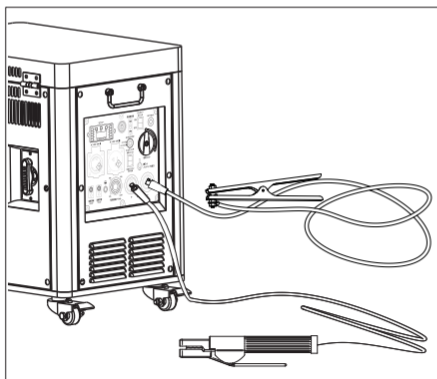
5.アースクリップを、母材(溶接物)にしっかり固定します。

母材(溶接物)に、塗装・メッキなどが施されている場合は、塗装・メッキを剥がします。油の付着や錆がある時は、取除きます。



MMA溶接機能のお取り扱い

6.各コードは下図のように、正しく接続されているかどうかを確認します。



7.溶接作業場所を点検します。

- 狭くて密閉された場所でないことを確認します。
- 周辺に引火性物質や可燃物がないかを確認し、ある場合は取除きます。
- 近くに子供やペットがいないことを確認します。

8.革製手袋、溶接用エプロン等の保護具を着用します。

⚠ 注意: 溶接作業場所周辺は、アーク光線が他人の目に入らないように保護幕などを設置してください。

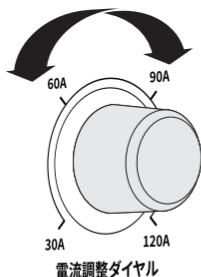
MMA溶接機能のお取り扱い

操作の仕方

1. 本機エンジンを始動させて、エコスイッチ「OFF」にして、溶接運転ランプ(緑)が点灯していることを確認します。



2. 溶接電流調整ダイヤルを所要の出力値に合わせます。



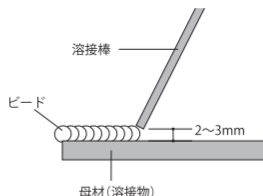
3. 溶接面または溶接メガネを着用します。
推奨溶接面: EENOUR 自動遮光溶接面

⚠ 注意: 手持ち溶接面をご使用の場合は、直接アークを見ることが多くあり、目を痛めてしまいますのでご注意ください。軽度の場合は、濡れタオルで冷やせば回復しますが、重度の場合は、医療機関にご相談ください。

4. 溶接棒を母材に軽く接触させた後少し引き上げて、アークを発生させます。溶接物と溶接棒が溶着した場合はホルダーを左右に振り、素早く引き離してください。また、途中まで使った溶接棒を再び使用する場合は溶接棒の先端を溶接物にたたきつけ、芯線が直接溶接物に触れるようにしてください。



5. 母材(溶接物)を密着溶接した後、溶接棒の先端と母材の隙間を2~3mmに保ち、アークを安定させます。

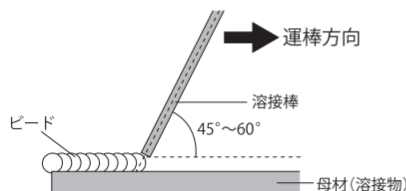


MMA溶接機能のお取り扱い

6.溶接棒の角度は進行方向に45°~60°程度倒します。

母材(溶接物)が薄い場合は、溶接棒を早く直線的に動かします。

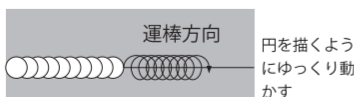
母材(溶接物)が厚い場合は、溶接棒の先端で、円を描くようにゆっくり動かします。円の大きさは直径 5~10mm程度です。



<薄板母材(溶接物)>



<厚板母材(溶接物)>



7.溶接が終了したら、溶接棒を母材(溶接物)より引き離します。

⚠ 注意: 母材(溶接物)は、大変熱くなっていますので、素手では絶対に触らないでください。やけどの恐れがあります。

8.溶接部分が冷え切ったら、チッピングハンマーでスラグ(溶接した上に覆っているカス)を叩き落とします。そして、ワイヤーブラシ等でビート表面を磨きます。



9.エンジンを停止して、少しの間(5分前後)本機が冷却した後、溶接ホルダとアークコードを出力端子から抜いてください。

⚠ 危険



禁止

- ・本機エンジンがかけると、溶接ホルダはすぐに通電して加熱されますので、起動前に安全な位置に置いて、他人を近づかないように注意してください。ホルダは機械本体と接触できません。
- ・溶接している間、いかなる種類の電気製品をACコンセントに接続しないでください。
- ・コード接続または溶接棒の交換はすべて停機状態のもとで行ってください。さもないと、通電であるコードなどは重大な人身事故を引き起こす可能性があります。

⚠ 警告



禁止

- ・交換する部品は当社の指定する部品以外は使用しないでください。
- ・取扱説明書に記載されている以外の分解や改造は行わないでください。

点検・整備の仕方

定期的にメンテナンスをする事によって本製品が最適な状態に保つことができます。

⚠ 警告



禁止

- ・交換する部品は当社の指定する部品以外は使用しないでください。
- ・取扱説明書に記載されている以外の分解や改造は行わないでください。

⚠ 注意



指示

- ・メンテナンス前に本書を読み必要なツールや技術がある事を確認してください。
- ・火災や爆発の危険を回避するため、メンテナンス作業するときは注意が必要です。部品の洗浄にはガソリンではなく、不燃性の溶剤のみを使用してください。
- ・業務使用の場合、通常より短い期間でメンテナンスが必要となり、怠ると保証できない故障が発生する可能性があります。

定期点検表

※1 バッテリー寿命を長く保つため、少なくとも3ヶ月に一度満充電してください。

※2 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。2回目以降は100時間運転後または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

※3 ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	12ヶ月毎 または 200時間 運転毎
バッテリー	・点検と充電			●※1		
エンジンオイル	・量の点検	●				
	・交換		●※2		●	
燃料	・量、漏れの点検	●				
エアクリーナー	・損傷、劣化の目視と指触による点検	●				
	・清掃			●※3		
点火プラグ	・点検と清掃				●	
	・交換					●
燃料タンクストレーナー	・汚れ、詰まりの目視点検および清掃				●	
マフラーワイヤネット	・清掃				●	
外装	・取り付けボルトのゆるみ確認			●		
内部の掃除	・湿気の少ない圧縮空気を内部に吹きつけ、チリやほこりを除去します。 ・柔らかい布等でファンの粉じんを拭き取ります。			●		

点検・整備の仕方

バッテリーの充電



指示

- ・バッテリー寿命を長持ちさせるためには、少なくとも3ヶ月に一度満充電してください。
- ・ACアダプターで充電する場合は必ずエンジン停止の状態で行ってください。
- ・専用ACアダプターはお買い上げ販売店にお問い合わせください。「アダプター仕様」出力:14.5V~15.5V/2A MAX、プラグサイズ:外径5.5mm 内径2.1mm

1.【専用ACアダプターで充電する場合】

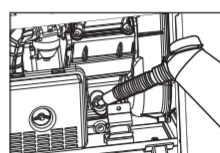
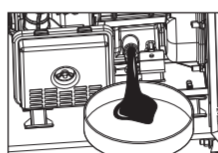
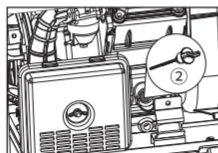
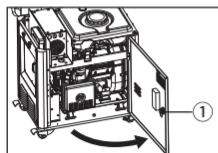
- ①バッテリー配線コードのコネクターを接続します。
- ②ACアダプターの出力プラグをコントロールパネル部の充電口に差し込みます。
- ③ACアダプターのコンセントプラグを家庭コンセントに差し込みます。
- ④充電時間はACアダプターの出力電流により異なりますが、出力1Aはおよそ2時間半、出力2Aはおよそ1時間半かかります。
- ⑤充電完了後、ACアダプターを外してください。

2.【発電機本体で充電する場合】

- ①バッテリー配線コードのコネクターを接続します。
- ②「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。
- ③エンジンが起動させると自動的に充電を開始します。
- ④1時間以上の発電機の連続運転(使用)を行ってください。
- ⑤充電完了後、エンジンを停止します。

エンジンオイルの交換

- 1.エンジンを始動し、2〜3分暖気運転をしてから停止します。エンジンオイルが排出しやすくなります。
- 2.排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
- 3.ハンドル①を手前に引いてフロントドアを開けます。
- 4.オイルゲージ②を引き抜き、付属のエンジンオイル排出用ホースを取り付けます。
- 5.発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
- 6.付属のエンジンオイル排出用ホースを外します。
- 7.オイルジョッキをオイル給油口に差し込み、エンジンオイルを規定量給油します。
- 8.給油したらオイルゲージ②を取り付け、確実に締め付けます。フロントドアを閉めます。



推奨オイル:4サイクル用エンジンオイル SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上
エンジンオイル規定量:0.45L

点検・整備の仕方

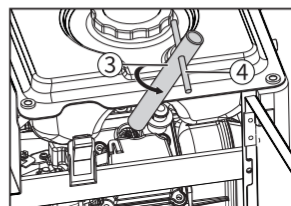
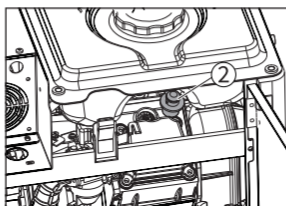
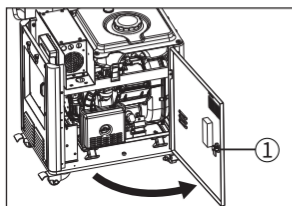
点火プラグの点検と清掃



指示

・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

1. ハンドル①を手前に引いてフロントドアを開けます。
2. 点火プラグキャップ②を点火プラグより外します。
3. 点火プラグスリーブパイプ③、プラグレンチ④で点火プラグを取外します。

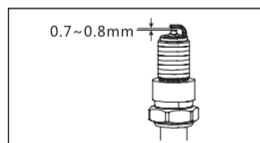


4. スパークプラグの焼け具合を点検します。電極付近は通常キツン色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはパーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ（カーボン）を落とします。

5. 電極のすき間を確認し、下記寸法になっていない場合は調整します。

指定点火プラグ:A5RTC (TORCH)

電極のすき間:0.7~0.8mm



スパークプラグトルク :12.5 N.m

6. 取り付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。
8. フロントドアを閉めます。

⚠ 注意



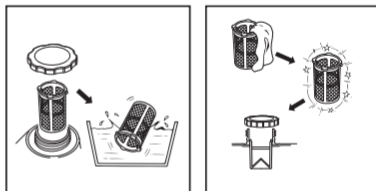
指示

・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

点検・整備の仕方

燃料タンクストレーナーの清掃

1. 燃料コックを「OFF」の位置にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナを洗淨します。
4. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。



⚠ 警告

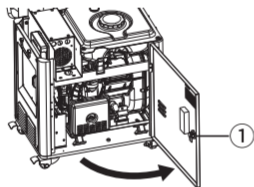


禁止

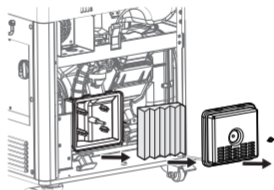
・作業中は喫煙したり、火気を近づけたりしないでください。

エアクリーナーが汚れて詰まるとエンジンに燃焼用の空気を送れず、点火しづらかったりエンジン回転数が安定しないなど、エンジン不具合の原因となります。定期的にエアクリーナーを清掃してください。土埃や埃などが多い環境で使用される場合は頻繁に点検清掃を行ってください。

1. ハンドル①を手前に引いてフロントドアを開けます。



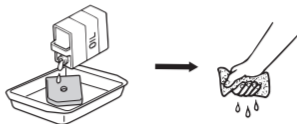
2. ボルトを緩めて、フィルター綿を取り出します。



3. 「洗油」または「水で薄めた中性洗剤」で洗います。洗浄後、フィルター綿を布で包み押しつぶすようにしぼります。

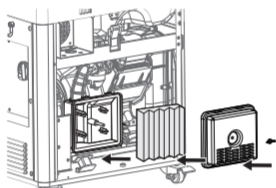


4. フィルター綿をエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。



点検・整備の仕方

5. フィルター綿をエアクリーナ本体にはめ込みます。エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。



6. フロントドアを閉めます。

⚠ 警告



禁止

・ガソリンや可燃性溶剤を使用してエアフィルターを掃除すると火災や爆発を引き起こす可能性があります。石鹼水または不燃性溶剤のみを使用してください。

⚠ 注意



禁止

・エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。
・エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



指示

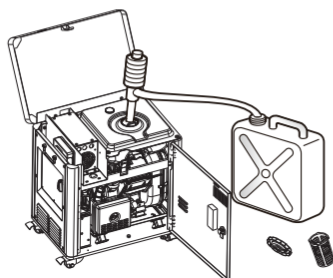
・エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

運搬する場合には

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、以下を必ず守ってください。

運搬の場合

1. エンジンを停止して、燃料コックとバッテリースイッチを「OFF」の位置にします。
2. エンジンが十分に冷えてから、トップカバーとフロントドアを開け、燃料タンクキャップ及びストレーナを取り外します。
3. 市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



4. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
5. 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定します。

警告



禁止

- ・振動、衝撃などで燃料タンクの燃料がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- ・燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- ・火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。
- ・発電機の上に重い物を置かないでください。



指示

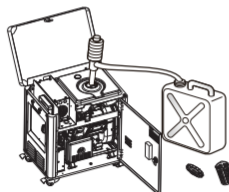
- ・火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。
- ・本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。特に横倒したまま運搬すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

一時保管・長期保管

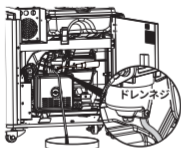
使用後または定期運転後、次回の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これを行わないと、故障の原因となります。

一時保管の場合

1.燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



- 2.燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
- 3.燃料タンク内のガソリンを抜いた後、発電機を起動します。(15ページ参照)
- 4.無負荷運転(電気機器は接続しない)を行っています。エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待ちます。燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。
- 5.エンジンが停止しましたら、保護カバーを開けます。
- 6.排出するガソリンを受ける容器を用意します。
- 7.キャブレターのドレンパイプを容器で受け、ドレンネジをドライバーで弛め燃料を抜きます。キャブレター内のガソリンを抜かず長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。



- 8.ドレンネジを締め付け、ドレンパイプを元に戻します。
- 9.フロントドアを閉めます。
- 10.室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

長期保管の場合

- 1.“一時保管”の1～10の作業を行います。
- 2.点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3～5mL給油します。
- 3.リコイルスターターグリップを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
- 4.リコイルスターターグリップを引き、重くなった状態(圧縮状態)にします。
- 5.各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
- 6.発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないで買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジン が始動し ない	燃料が入っていない	燃料を給油する	11ページ
	オイル警告灯(赤)が点灯している →エンジンオイルが入っていない、 量が少ない	エンジンオイルを給油 する	13ページ
	エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認 する	14ページ 16ページ
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	26ページ
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	25ページ
	本機が傾いている → オイルアラート機構の作動	水平にする	13ページ
	問題のある燃料、エンジンオイル によるエンジン不調	正しい燃料・エンジン オイルに入れ替え	13ページ
	複数の電気機器を使用するなど 急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	/
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	25ページ
	キャブレターが詰まっている	キャブレターの清掃	/
エンジン が数分動 いた後止 まる	複数の電気機器を使用するため急 に大きな電気を取り出す	電気を少しずつ取り 出す	/
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	25ページ
	キャブレターが詰まっている	キャブレターの清掃	/
マフラー から白煙 が出る	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出し て規定量を注入する	13ページ
	SA級など、指定以外のエンジンオ イルを使用する	指定のエンジンオイルを 使用する	13ページ
電気が取 り出せない	過負荷警告灯(赤)が点灯・点滅、 出力表示灯が消灯する	過負荷の原因または使 用器具の異常を改善する	17ページ
	水中ポンプ、コンプレッサーなど、起 動時に大電流が流れる電気機器を 使用	エコモードをOFFにする	09ページ
	シートをかぶせている、または屋内 で使用するなどして本機の温度が 高くなっている	本機周辺を点検する、 または屋外で使用する	14ページ

不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で点検を行い その上でなお異常がある場合はお買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	原因	対処
溶接警告灯(赤)が点灯する	過負荷等により温度が上昇する	しばらくファンを回転させ、内部の温度を下げる
	使用率オーバーで使用している	溶接量を減らす又は、時間をおいてから溶接する
アークが不安定	溶接コードの接続不良	接続部分をしっかり締める
	電極径に対し溶接電流が小さい	適正電流で使用する
	同時に他の機器を使用している	他の機器のスイッチを切る
	電源電圧降下が大きい	延長コードはなるべく短くし太いものにする
アークは出るが弱い	母材厚に対して入力が小さい	溶接電流を調整する
	溶接棒が濡れている	乾燥させてから使用する
	接続が逆極性になっている	アースコードを正極性に接続し直す

仕様諸元

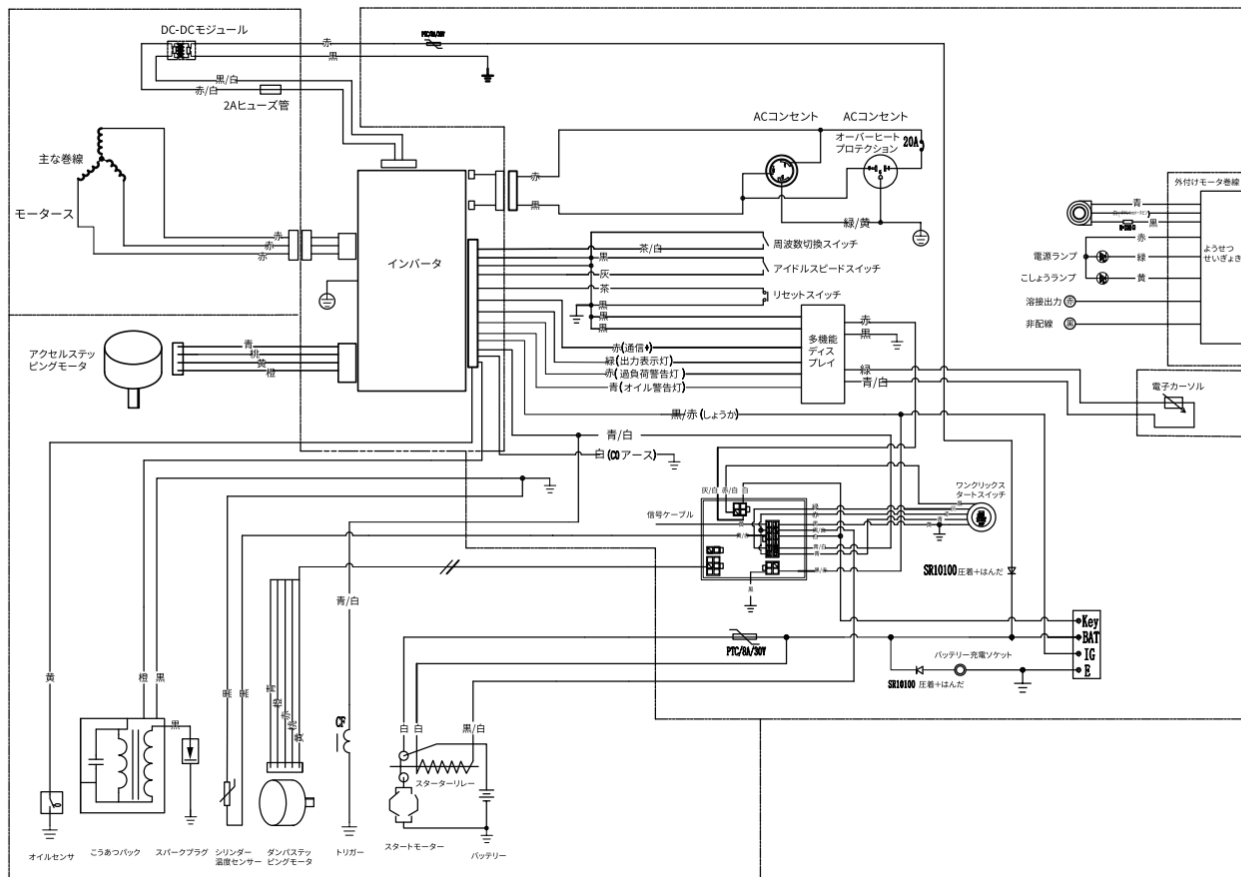
機種		DK4600iW
発電部型式		多極界磁回転型
相数		単相
力率		1
交流(AC)	定格出力	3.5kVA
	最大出力	4.0kVA
	定格電圧	100V
	定格電流	35A
	定格周波数(切替式)	50Hz/60Hz
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークOHVエンジン
	総排気量	160cc
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	点火プラグ	A5RTC (TORCH)
	エンジンオイル	4 サイクル用エンジンオイルSAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上
	エンジンオイル規定量	0.45L
MMA溶接	溶接モード	MMA
	適用溶接棒	2.0-2.5mm
	電流調整範囲	30-120A
	定格使用率	80%
燃料タンク容量		7L
連続運転時間		定格連続運転時:約2.7h 1/4 負荷連続運転時:約8h※1
騒音レベル(7m)		59dB※2
始動方式		リコイルスターター/セルスターター/リモコン
内蔵バッテリー		12.8V/2Ah(リン酸鉄リチウムバッテリー)
使用環境温度		-5℃～40℃
適用環境標高		1500m以下の地域※3
寸法(全長×全幅×全高)		49.6×34.5×54cm
乾燥重量		42kg

この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

※1:エコモード ON 時

※2:仕様諸元表に表示した騒音値は、エコモード ON (作動中) 時で、機側7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

※3:標高1000mを越えると大気圧が低くなり空気密度が薄くなるため、発電出力が低下することがあります。



保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間はご購入より一年間となります。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は使用電子部品の製造中止で、生産及び販売終了となる場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③本体の上部に貼られているバーコードラベルでの製造番号

④故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただけると幸いです。)

・ご不明な点や故障に関するご相談は、ご購入の販売店、または下記営業窓口にお問い合わせください。

メールアドレス



support@eenour.com

受付時間:10:00-13:00、14:30-18:30

(土・日曜、祝祭日・年末年始および当社指定休業日は除く)

保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

保証書

品 名	EENOUR エンジン発電機兼用溶接機
品 番	DK4600iW
購 入 日	年 月 日
保証期間	上記ご購入日より1年間（消耗品を除く）
お 客 様	ご住所 〒
	電 話 ()
	お名前 ----- 様

1. 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限りです。
2. 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限りです。
3. 消耗品に関しましては、保証対象外となります。
4. 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。
* 本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。
* 使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。
* お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
5. 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべきりし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせていただきます。

